

子どもの本だな 117

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

コールテンくんのポケット

ドン・フリーマン 作 木坂 涼 訳 (好学社)

コールテンくんは、リサの持っているくまのぬいぐるみです。ある日、コールテンくんはリサとお母さんと一緒にランドリーへ行きました。お母さんがポケットの中をみるようリサに言ったとき、コールテンくんは自分のズボンにポケットがないのに気づきました。そこでポケットを探しはじめました。台の上を見ましたがありません。大きな袋の中にもありません。探しているうちにお店は閉まり、電気が消えて真っ暗になりました。置いてきぼりになったコールテンくんは、またポケットを探し始めました。白い粉が入った箱を見つけ、「これ雪かな?」。すると箱が倒れ、勢いよく出てきた粉せっけんの上をすべりおりた先はかごの中。そこでコールテンくんはくたびれて寝てしまいました…。

ランドリーで大冒険をするコールテンくんが、黒の輪郭と色鮮やかな絵で生き生きと描かれています。翌朝迎えに来たりサに、ポケットと名札を作ってもらって嬉しそうなコールテンくんの様子が大満足です。『くまのコールテンくん』の続編。読んでもらえば4歳くらいから。(池之上)

ダーウィンのドラゴン

リンゼイ・ガルビン 作 千葉 茂樹 訳 (小学館)

幼い頃に両親を亡くしたシムズ少年は、雑用係兼バイオリン弾きとしてビーグル号に乗り込み、世界一周の航海に出ました。ダーウィンと共にガラパゴス諸島の島に上陸した際、シムズは、急な嵐の中、ボートから落ちたダーウィンを助けようとして波にのまれ、ひとり無人島に打ち上げられました。そこで出会ったイグアナのような緑色のトカゲは、弱ったシムズに寄り添い、食べ物を探し、毒ムカデや狂暴なアシカからシムズを救ってくれます。シムズは、銅貨にちなんでトカゲにファージングと名をつけました。ファージングについて火山の洞窟を奥へ進むと、岩棚に金色に輝く8個の卵がありました。シムズが噴火直前の火山から救い出した卵は、ドラゴンの卵でした…。

イギリスに持ち帰った卵がかえり、新種のトカゲだと思っていたファージングがドラゴンの子どもだと分かった時の驚き、ドラゴンの子たちを囚われの洞窟から逃がす時の切ない別れ…。読者はシムズと思いを共有し、ファージングとの深い絆が心に残ります。11~12歳から。(池田)

8月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
		×	2	3	4	5
6	7	×	9	10	11	12
13	×	×	16	17	18	19
20	21	×	23	24	25	26
27	28	×	30	×		

9月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	×	6	7	8	9
10	11	×	13	14	15	16
17	18	×	×	21	22	23
24	×	×	×	×	×	×

<お知らせ>

夏休み特別 おはなしの夕べ

夏休みの夕方、ろうそくの灯をともした部屋で、おはなしを聞いてみませんか。今年は、「こわいお話」を予定しています。

◆日時: 8月18日(金)

①4歳~大人 18:00~

②小学校高学年~大人 18:30~

◆申込: 太子町立図書館

※要申込。定員になり次第締切。

※途中からは入れませんので、時間までにお越しください。

※8月の定例の「絵本の時間」「おはなしの時間」はお休みです。9月に再開します。

▶ ×印は休館日 ※閉館時は返却ポストをご利用ください。
(8/14、9/20、9/25は祝日の振替、8/31は館内整理、9/27~10/2は特別館内整理)
▶ 開館時間は10:00~18:00、金曜日は20:00まで開館

『言語はこうして生まれる』 『即興する脳』とジェスチャーゲーム モーテン・H・クリスチャンセン 著
ニック・テイター

塩原 通緒 訳 新潮社 327, 49 頁 2022 年 11 月刊 2,700 円 (請求記号)801

人間は、言語によって知識や技術を伝達し、文明を発展させてきた。人間社会の根幹ともいえる言語は、どのように生まれたのか。この謎を解き明かすため、多くの言語学者によって様々な説が提唱されてきた。本書は、「言語はジェスチャーゲームのようなものだ」というアイデアのもと、言語学の定説に一石を投じている。

ジェスチャーゲームとは、言葉を使わず身振り手振りで言いたいことを相手に伝える遊びである。そのため、言語ジェスチャーゲームという主張は、一見矛盾しているように感じる。しかし、コミュニケーションの本質に目を向けると、その実態が浮かび上がってくる。一例として、ヨーロッパの探検家クック船長の一行と、南米の現地民ハウシュ族の邂逅が挙げられている。両者は共通言語を持たず、文化面でも大きな違いがあったにもかかわらず、コミュニケーションを成立させた。これは、両者が互いに相手の発信を能動的に理解しようとしたためである。発信者は、自分の意図を正しく解釈してもらえよう、一連の手がかりを与え、受信者は、自身の知識や経験を総動員させ、受け取った手がかりを読み解いていく。こうした即興の共同作業がコミュニケーションの本質であり、まさしくジェスチャーゲームといえる。そして言語とは、ジェスチャーゲームにおける身振り手振りと同様、理解への手がかりを互いに伝え合うための手段である、というのが本書の主張である。

言語がジェスチャーゲームであるという仮説は、言語の起源を考察する基盤にもなっている。言語の発生について、現在の言語学会では、生物学的観点から提唱された生得説が有力視されている。これは、人間は言語を操る生物として進化したため、遺伝的に言語を獲得している、という考えである。対して本書は、人間がより効果的にコミュニケーションを行うために、伝える手段を洗練させた結果、言語が生じたのではないかという説を提案している。残念ながら、起源の真偽を検証する手段は存在しない。それでも、画期的なアイデアにより、既存の言語学に新たな視点をもたらした本書は、言語の謎を解き明かす礎になっていると感じた。

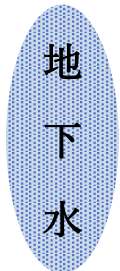
(光藤)

8月	9月	8・9月の移動図書館(いずれも木曜日です)				
10日	7日			福地(三反長) 地域内 14:30~ 14:50	米田 公会堂 15:00~ 15:20	竹広南 公民館 15:30~ 15:50
17日	14日			原池団地 公民館 15:00~ 15:20	山田 掲示板前 15:30~ 15:50	原 大田東地区 農村交流 センター 16:00~16:20
24日	21日	広坂 公民館 10:30~ 10:50	上太田 公民館 11:00~ 11:20	塚森 地域内 15:00~ 15:20	太子 ニュータウン 公民館 15:30~ 15:50	吉福 公民館 16:00~ 16:20

< お知らせ >

● **なつやde文化村 8月11日(金・祝)**
 > 絵本の時間 ①11:00~
 ②14:30~
 ※対象:2~3歳の子どもとその保護者

● **13歳からの読書会**
 ~『小さい牛追い』を読んで~
 (マリー・ハムズン 作 石井桃子 訳 岩波書店)
 ・日時: 8月13日(日)
 14:00~15:30
 ・場所: 図書館 読書会室
 ・対象: 中学生以上(要申込)
 ・準備: 当日までに本を読んできてください。



7月1日の朝、開館前から図書館の外にたくさんの子どもたちが並んでいた。前日が館内整理日で休みだったからか、今日のおはなしの時間に入るからかとぼんやり考えていたら、その子たちは広報に掲載のダンボール工作教室の申込に来ていたのだった。カウンターでの対応と同時に、事務室では電話が鳴り続け、目が回るような忙しさ。開館から20分で定員いっぱいになってしまった。改めて広報の力を実感した。

先日、近隣の図書館員が集まる研修会でコロナ禍以降、おはなしの時間に参加する子どもが減っているという話が出た。子どもたちに図書館に興味を持ってもらうためにどのような手立てが必要なのか、どの館も工夫を凝らしているらしい。今の時代ならばSNSの投稿で呼びかけるのはどうだろうという話が出た。名案ではあるが、SNSはスピードが勝負でもたもたしているとあつという間に情報が古くなってしまいうため、テキスト本を片手に四苦八苦している。図書館では「太子ふるさと文化村」のアカウントでフェイスブックとインスタグラムを開設している。行事や展示の紹介など投稿しているので、ぜひ一度覗いてみてください。

(八木)